



人権の視点から 保護者支援を考える

つむら かおる
津村 薫 さん（フェリアン 副所長）

人権保育専門講座3では、フェリアン 副所長の津村 薫さんに、「人権の視点から保護者支援を考える」と題して、ご講演いただきました。講演では、実践例をもとに保護者の思いを大切にされた保護者支援などについて具体的にお話いただきました。今回は、講演の一部を紹介します。

◆「あなたが大切です」という思いが伝わるコミュニケーション

日本の子育て支援の問題点の1つは、支援者側が保護者に冷たい視点を持ちがちであるということです。「なんで自分の子どもひとり満足に育てられないの?」「子育て支援が親を甘やかしてだめにするのでは?」というような子育てをする側に責任を押しつける傾向があります。「完璧な親」など存在しません。支援の基本姿勢として支援者側に「あなたが大切です」という思いが伝わるコミュニケーションを心がけましょう。



支援者側を困らせている背景には、地域社会の崩壊による孤立、伝承のない子育て、コミュニケーションの希薄化、情報の氾濫、ストレス耐性の弱まりなど、様々な問題があります。よりよい支援のためには、支援者側にある課題よりも社会にある課題と一緒に考えて支援をしていくことが必要です。「温かいが、決して馴れ馴れしくない、冷静だが決して冷たくない適度な距離やバランスの良さ」を大切に考え、支援する場合の自分自身の立ち位置を確認していきましょう。

◆よりよい支援のための定期的な「自己点検」をしましょう



ここに木があります。見えない地面の下には「根」があります。「根」の部分の私たちに置き換え、そこには子育て観や子ども観などの「価値観」があると考えてみましょう。「幹」は「態度」、「葉」は「言葉」です。私たちの態度や言動は、価値観に影響を受けています。この価値観は人から見えるものではありません。態度や言動を指摘されても価値観が変わらなければ変化しません。そこでバイステックの7原則（ケースワークの原則）などを振り返りながら、自分自身の価値観を「自己点検」しましょう。そうすることでより良い支援につながります。

【参加者アンケートより】

- 今日の講義を受けたことで、自分が「このときどうしたら良かったんだろう」と思っていた悩みの答えが分かり、スッキリしました。あと、『受容とは相手を変えようとしないこと』という言葉が心に響きました。保護者にそっと寄り添っていけるようにしていきたいです。
- 自分はどんな価値観を持っているか、姿勢や態度はどうか、相手の気持ちに寄り添って話を聞いているかなど、支援者としての自分を振り返る機会になって良かったです。正直「相手にこうなってほしい」と思いながら相手とかかわることもあったように思います。そうではなく、「相手自身がどうなりたいか」を相手の話をしっかりと聞きながら一緒に考えていく支援者でありたいです。また、相手の良いところや強み、持っているものに目を向けることも大事にしていきたいと思いました。おとなだけでなく子どもに対しても大切なことだと思えます。常に自分自身の価値観やかかわり方などを見直しながら「話を聞いてもらえて良かった」と思ってもらえるような支援者をめざしていきたいです。